

すべての教科に共通する「日本語力」を鍛えることが成績を上げることに役立つ

～日本語検定は塾講師も日本語を見直す良いチャンス～

公益社団法人全国学習塾協会
学習塾講師検定主任審査員
高橋直子先生

インタビュー



高橋直子先生は、公益社団法人全国学習塾協会学習塾講師検定主任審査員で、学習塾講師歴 17 年のベテラン。神奈川県での学習塾に入社後、母親が始めた学習塾を継承されました。2010 年第 5 回全国模擬授業大会最優秀賞を受賞され、現在はそれまでの塾講師としての経験を生かし、学習塾講師の授業研修を中心とした活動を展開中。高橋先生にお話を伺いました。

・高橋先生、本日はよろしくお願いたします。現在なされているご活動についてお聞かせください。また、どうして、学習塾の世界に入られたのでしょうか。

現在は塾講師の方々を対象とした授業研修、モチベーションアップ研修等を行うことが主な活動です。また限定的ではありますが、実際に授業をもつこともあります。その他、ご依頼に応じて学習塾に関する事業に携わっています。

学習塾の講師になったのは、学生時代に地域のボランティア活動に参加していたことがきっかけです。その活動は小中学生を対象としたもので、非常に充実した経験ができたことから、職業も子ども達と関わるものを望むようになりました。



公益社団法人

全国学習塾協会

・学習塾の形態も多岐にわたっておりますが、子ども達にとって、学習塾とはどのような存在なのでしょう。また、どうあるべきだと思いますか。また、それに伴って、今の学習塾に求められること、求められる講師像について教えていただけますか。

確かに塾にはそれぞれ個性があり、現在は様々な授業形態で、様々な授業以外のサービスを提供している塾が増えています。それはとても素晴らしいことで、これから新しいサービスが提供されるようになると思いますが、どんなに多様化していても、生徒の成績を上げ、志望校に合格させる場所ではなくてはいけません。そのためには子ども達が「自分の居場所」として楽しく通えること、またその子ども達を送り出す保護者の方々の支えになってあげることが必要です。そしてそれらを叶えるための環境を整え、安心・信頼してもらえる塾であり、講師であることが大切だと思います。

次ページへ続く >>>

・今の質問と重複するかもしれませんが、子ども達と塾講師とのコミュニケーションのあり方について、高橋先生のご意見をお聞かせください。また、講師の日本語力に関して何かお感じになっていることがございましたら、教えていただけますか。

相手が子どもでも大人でも、円滑なコミュニケーションを図るために、最近、特に大切だと思うことは、「相手をありのまま受け入れることを基本にする」ということです。実は塾講師はこういった感覚をもつのが非常に難しい職業で、どうしても「指導的」になりがちです。残念ながら「教えてやっている」という感覚をもった講師は少なくありません。時にはリードしてあげることも必要ですが、相手の気持ちに寄り添うことを忘れてはいけないと思います。

その際に、当然どんな表現をするのが重要ですから、「日本語力」を無視することはできません。「流行り言葉」というのはいつの時代もありますが、講師としてそれらを使いすぎるのは、子ども達に影響しかねないので、あまり好ましくないとします。



・これから学習塾の講師を目指す方にも、日本語検定は有効なのでしょうか。また、学習塾の講師を目指す方へのメッセージをいただけますでしょうか。

先ほどお話した理由から、「日本語検定」は非常に有効なものだと思います。過去の試験問題を拝見しましたが、とても実用的な内容になっているので、生徒のみならず、講師が受検する価値は大いにあります。ふだん、何気なく使っている「日本語」をあらためて見直す良い機会になるのではないのでしょうか。「日本語検定」を通じて学んだことは、大人も子どもも実生活に生かされると思います。



・現在、全国の学習塾で日本語検定を受検していただいております。小学生、中学生のうちに日本語力の基盤を作ることがすべての教科の理解を深めるために有効で、そして「考える力」を身につけるといふことから受検していただいております。学習塾で「日本語検定」を実施することの有効性等について、高橋先生のご見解をお聞かせください。

塾に通ってくれている生徒たちの成績を伸ばすためには様々な方法があります。その一つとして、すべての教科に共通する「日本語力」を鍛えるということは成績を上げるために大いに役立つことでしょう。また現在は様々な検定があり、それらの全てを学校で受けることはできません。地域によっては学校では受検できない場合があります。学校で受けられなければ個人で申し込むことになるので、ふだん通っている塾、あるいは近所の塾で受検できれば、非常に受けやすくなり、受検機会を増やすことにつながると思います。